



MIYAGI CHILDREN'S HOSPITAL
宮城県立こども病院

発行：地方独立行政法人 宮城県立こども病院

本館改装と再配置による 情報共有環境のグレードアップ

院長 今泉 益栄



宮城県立こども病院は、宮城県拓桃医療療育センターとの統合工事を完了し、2016年3月に新しい拓桃館の稼働を始めました。実は、この統合工事に合わせてこども病院本館でも次の3つの改装と再配置が行われました。

第一、PICUの充実。病院西側にPICUエリアを拡張して一床当りの面積拡大とシーリングペンダント設置など効率的な環境を実現しました。稼働病床数は統合前と同じ7床ですが、今後小児救急・集中治療のさらなる充実に取り組めます。

第二、部署の再配置。拓桃館に移動した栄養管理部門の跡エリアに看護管理室と情報システム管理室、医療安全推進室と感染管理室を再配置しました。あわせて、院内分教室職員室跡に地域医療連携室を再配置しました。これにより、インシデントや診療状況の情報を効率的に入手できるようになりました。

第三、職員ラウンジの改装。拓桃館に移ったリハ部門の跡エリアを職員ラウンジに改装しました。仕切りパネルを動かして会議や作業、カンファランスなどに多目的使用できます。9月に愛子ホールで行った職員対象の説明会ではモニター投影した職員ラウンジが第二会場となりました。

新しい拓桃館と宮城県拓桃支援学校に目が向いて分かりにくいですが、この本館の改装と再配置はソフト面で予想を超える効能を生み出しています。感染と医療安全の双方に関わるインシデント対応、看護業務の電カルテ不具合への迅速なSE対応、前方支援と後方支援のスタッフ同士の話し合いなど、病院内情報が以前より円滑に共有されるようになったのです。病院業務や診療の情報は多面的で職種間に大きなギャップが出来てしまいます。この改装と再配置により部署・職種間で情報共有の環境がグレードアップしたのです。

病院理念

- ・私たちは、こどもの権利を尊重し、こどもの成長を育む心の通った医療・療育を行います。
- ・私たちは、高度で専門的な知識と技術に支えられた、良質で安全な医療・療育を行います。

基本方針

1. チーム医療・成育医療及び総合的な療育プログラムを実践し、温かい医療・療育を行います。
2. こどもの成長・発達に応じたきめ細やかな医療・療育を行い、自立の心を育みます。
3. 一人ひとりの成長・発達に寄り添い、安全で潤いのある療養・療育環境を整えます。
4. 小児医療と療育の中核施設として、地域の関係機関と連携し、患者や家族の地域での生活を支えます。
5. こどもや家族と診療・療育内容の情報を共有し、情報公開に努めます。
6. 自己評価を行い、外部評価を尊重するとともに、業務の改善や効率化を図り、健全経営に努めます。
7. 臨床研究及び人材の育成を推進し、医療・療育水準の向上に貢献します。
8. 職員の就労環境を整備するとともに、職員の知識・技術の習得を支援します。

Contents

各診療科アピールポイント	2
部門紹介	3
ボランティア紹介	3
地域医療連携室だより	4
東北療研開催報告	5
拓桃園紹介	6
行事予定	6
編集後記	6





各診療科アピールポイント



脳神経外科

当科は東北地方唯一の小児専門の脳神経外科です。脳神経外科というと脳卒中のような重篤な疾患をあつかうというイメージを受けますが、当院では一般の病院とは大きく異なる診療を行っています。手術で最も多いのは二分脊椎及びその関連疾患です。二分脊椎というと新生児に見られる脊髄髄膜瘤を連想しますが実際には腰仙部の外表異常だけで、明らかな神経症状を呈しにくい脊髄脂肪腫が多くみられます。乳幼児期に治療を受けると何ら異常なく発育する頻度が高くなりますが、発見が遅れると排尿排便障害が顕在化し、下肢運動障害が悪化する頻度が高くなります。私達は乳幼児期での早期発見を目指して多くの機会を得て啓蒙活動を行っており、宮城県内では乳児健診の際に腰仙部及び殿裂にも注意が払われるようになりました。しかしまだまだ十分とは言えません。怪しいな？とか、何か違うかな？と思われた際にはお気軽に当科にご紹介ください。異常ではないと判った場合でも懇切丁寧な説明を行い、ご家族の不安を取り除くよう努めております。

次に多いのが水頭症を始めとする頭蓋の異常です。水頭症は妊婦健診で指摘され早期に当科を受診される方が多くなっている一方で、出生後に徐々に発症して来る例も少なく無く注意が必要です。そのような例では必ずしも典型的な頭蓋内圧亢進症状を呈する訳ではなく成長曲線に添わない頭囲拡大傾向が唯一の症状である事が少なくありません。早期発見によって重篤な

副院長兼脳神経外科科長 白根 礼造

神経症状を避ける事ができますが、発見が遅れると歩行障害や発達障害が顕著になってきます。日々の診療で頭が大きいと思われたらまず頭囲曲線を確認する事を勧めます。治療はいわゆる髄液シャント術ですが最近では内視鏡治療の役割が大きくなっています。

その他にも頭が小さい或は頭蓋の変形で当科を受診される方が多くみられます。乳幼児特有の脳の容積増大と頭蓋の発育に問題があり、開頭手術を要する例もあります。一方、病的ではない頭蓋変形（頭囲性斜頭蓋）が見られる場合もあります。胎児期の児頭の位置等によって変形を生じるのが原因で発達には影響を及ぼしません。以前は適切な治療法が無かったため、寝かせ方等を指導して様子を見ておりました。しかし変形が強い場合は自然に改善されることは期待できず、一生涯、美容上の問題を残します。最近ではヘルメット療法が導入されて良好な改善が得られるようになっていきます。美容的な問題の改善ですので保険診療ではありませんがこどもの将来にとっては小さく無い問題です。生後6ヶ月までの治療開始が理想的であり早めの紹介が望まれます。

以上に述べた以外にも当科ではモヤモヤ病等の小児脳血管障害、頭蓋内腫瘍等、小児脳神経外科疾患全般の治療を行っています。スタッフは君和田友美、小濱みさき、白根礼造の三人ですのでお気軽に問い合わせください。新患は受入数を増やしており待たずに受診可能となっています。



左から 小濱 みさき 医長、君和田 友美 部長、白根 礼造 科長



部門紹介

外 来



外来看護師長 岩崎 光子

外来は、本館・拓桃館の1階エリアで小児医療に関わる27診療科が診療を行っております。各診療科医師、看護師22名、診療支援職種（医師事務作業補助者14名、歯科衛生士4名、視能訓練士1名）、受付クラーク、ボランティアの多職種協働にて対応しております。診療は紹介予約制であり、夜間・休日は救急車来院患者や紹介患者、かかりつけ患者の救急対応を行っております。

外来看護師は、診療補助（採血・処置検査介助）、内視鏡検査介助、ケア指導、電話相談などの業務を担っております。小児の専門性を高める対応として小児専門看護師2名、皮膚・排泄ケア認定看護師2名が配置になっており、アレルギー疾患の生活指導や環境指導、長期療養児者への継続的支援、人工肛門などの医療処置ケア管理を提供しております。また、こども達の成長支援として成人移行期支援にも取り組んでおります。

今後もこども達が家族とともに地域で生活できる支援を目指していきたいと考えております。



前列 中央岩崎師長と右から2人目佐藤篤血液腫瘍科科長、
後列 左から2人目梅林リウマチ・感染症科科長と外来スタッフの皆さん

● ボランティア紹介 ●



拓桃館案内

大山直子・岡田美佐恵・今野慶子・佐藤明美・正路節子・高橋範夫

私たち拓桃館案内ボランティア6名は、拓桃館入口で活動しています。

拓桃案内の患者さんは本館と比較して少ないのですが、拓桃館から本館に初めていかれる方の案内をしたり、拓桃館に入院する患者さんの荷物のカートを運んだりとさまざまなお手伝いをしています。また、ひだまりラウンジの玩具やテーブルの清掃を行い、壊れた玩具を玩具修理に出すこともあります。

いつも同じ曜日に拓桃館におりますので、顔見知りになったお子さんやご家族から声をかけていただくこともあり、お子さんの成長をご家族と一緒に喜ぶことができる楽しみもあります。

これからも患者さん、そしてご家族の方のお役に立てるようにもっと気配りをしていきたいと思ひます。



大山 直子



岡田美佐恵



今野 慶子



佐藤 明美



正路 節子



高橋 範夫



地域医療連携室だより



● 感染対策研修会を開催しました ●

リウマチ・感染症科
科長 梅林 宏明



山形大学医学部附属病院
森兼 啓太 先生

平成 29 年 7 月 19 日、本年度第 2 回感染対策研修会が森兼啓太先生を講師にお招きして開催しました。森兼先生は山形大学医学部附属病院検査部部长、病院教授、感染制御部部长を務められている傍ら、日本環境感染学会理事や同学会の教育委員会委員長も務められており、まさにわが国の感染制御分野におけるトップリーダーです。

「薬剤耐性菌のアウトブレイクにみる日常の感染対策の重要性」という題名でしたが、貴重なご講演ということで 163 名の参加者があり、登録医療機関からも 11 名（うち医師 3 名）のご参加をいただくなど、関心の高さが窺えました。薬剤耐性菌そのもののお話から、アウトブレイク事例への介入といった具体的内容まで、大変分かりやすくお話いただき、参加者の皆さんもご満足いただけたと思います。

薬剤耐性菌の問題はわが国だけではなく世界的な喫緊の問題であり、今回の講演を通して職員の薬剤耐性菌、感染制御への関心が高まったと考えます。

● 地域医療研修会のご案内 ●

緩和ケア研修会

平成 30 年 1 月 17 日（水） 18:00～19:30 当院本館 1 階 愛子ホール

講 演 「子どもを看取る家族に必要なケアと『わたぼうしの会』の取り組みから見たこと」

講 師 神奈川県立こども医療センター 母性病棟 看護科長

家族支援専門看護師 佐藤 律子 様

標記の研修会以外にも、臨床放射線病理カンファランス、臨床遺伝カンファランス、輸血研修会、小児看護研修会、小児 NST 研修会、安全対策研修会等の開催を予定しております。詳細が決まり次第、当院ホームページ <http://www.miyagi-children.or.jp/> に掲載しますとともに、メールアドレス登録済みの先生方へ電子メールでご案内いたします。

セカンドオピニオンについて

宮城県立こども病院では、セカンドオピニオン相談（完全予約制）の対応をしております。詳細は、事前に当院ホームページ、地域医療連携について→患者・家族の方へ→セカンドオピニオンについてをご覧ください。か、地域医療連携室（平日の 9:00～16:00 対応）にお電話でお問い合わせください。

宮城県立こども病院 地域医療連携室 室長 虻川 大樹

〒989-3126 仙台市青葉区落合四丁目 3 番 17 号

開室時間 月曜日～金曜日（祝日、年末年始は除く）8:30～17:00

TEL: 022-391-5115（直通） FAX: 022-391-5120（直通）

E-mail: tiiki@miyagi-children.or.jp URL: <http://www.miyagi-children.or.jp/>



第 54 回 東北・北海道肢体不自由児施設運営協議会

第 52 回 東北・北海道肢体不自由児施設療育担当職員研修会 開催

東北療研運営委員

副看護部長 皆川 寛恵

平成 29 年 8 月 30 日（水）から 9 月 1 日（金）までの 3 日間にわたり東北療研（上記の 2 つの会の総称）が江陽グランドホテルで開催されました。

東北療研は、東北・北海道の肢体不自由児施設等に勤務する職員が、日常の療育内容の研究発表を通して知識技能の向上と相互の交流を図り、肢体不自由児等の福祉と療育事業の発展に寄与することを目的として、北海道と東北 6 県の持ち回りで毎年開催されているもので、今年は宮城県立こども病院が当番施設として企画・運営をしました。

8 月 30 日の運営協議会は 37 名の各施設の施設長・事務長・総看護師長の参加で行われました。第一部の運営協議会総会では、前年度の事業報告及び決算報告・本年度の事業計画及び予算報告・次年度以降の開催担当施設の検討・役員改選と次第に沿って行われました。次年度以降の開催担当施設の検討では、平成 31 年度の東北療研と翌年の全国療研の双方を秋田県立医療療育センターが担当する事の負担について議論され、平成 31 年の東北療研運営担当は北海道立子ども総合医療・療育センターに変更されました。それに伴い東北療研の運営担当順を、県単位から 10 施設の持ち回りとなり、事務局である福島整肢療護園で調整を図ることになりました。第二部の分科会では、協議会と総師長会に分かれ、協議会では 5 題・総師長会では 6 題事前提出されている議題を基に話し合いを持ち、第三部の報告会では、東北・北海道ブロックにおける災害ネットワーク運用マニュアルを作成することが決まりました。



運営協議会の様子

翌 8 月 31 日～9 月 1 日の研修会には、総勢 126 名の参加がありました。研究発表は、職種・研究内容で 7 つのセッションに分けて発表とし、当院からの看護部 4 題・リハビリテーション・発達支援部 2 題・成育支援局 1 題を含めた合計 29 題の発表となりました。各発表では活発な質疑応答がなされ、療育に関わる知識・技能を深めるものとなりました。セッションの間には、写真家茅原田氏の特別講演と東北大学病院てんかん科の藤川助教による「リハビリテーションにおける心理社会的スクリーニングの有用性」、当院整形外科科長 落合医師による「ペルテス病の治療」2 つの研修講演を組み入れ、最新の世界情勢や治療情報等知識を深める機会になりました。



8 月 31 日の意見交換会では、当院のすずめ踊りのサークルと軽音楽サークルの有志が日頃の研鑽の成果を披露するなど、成育支援局の企画と共に手作り感のある和やかな会となりました。

こども病院へ移転して 2 年目で迎えた、大きな会の運営に不安と戸惑いがありましたが、前年担当施設から情報がいただけたことと、何より各部署から運営委員として参加いただいた 9 名の職員を始め、多くの職員の協力が得られたことで、より良い会にできましたことに感謝いたします。



意見交換会の様子



拓桃園紹介



保育士の役割～こどもとご家族に寄り添いながら～

主任保育士 川部 早江

平成 28 年 3 月に秋保の地から当病院に移転してきた拓桃園には、11 名の保育士がおります。入院されるお子さん達は親元を離れての単独入院となりますので、安心して楽しく入院生活を送れるよう、まずは職員との信頼関係作りを第一に考えております。病気や障害を抱えながら成長・発達することも達があたりまえの生活を送り、様々な場面を通して自己肯定感を高め、生涯にわたり自信を持ち意欲的に、そして自主的に生きていくために必要な力の基礎を培えるよう関わっています。

未就学児に対しては集団保育を行い、地域での生活と同じ環境となるよう人的・物的環境を整え、一人一人の状況に合わせて就学までに身につけるべき基本的生活習慣や社会性の習得を目指しています。高校生に対しては在籍中の学校での学びに沿った学習ができるよう援助しています。また、医療的に様々な制限があるこども達ですが、放課後や休日の余暇活動の充実に努めています。親子入院の方々には、個別・集団保育を行いながら「遊び」とおして成長・発達を促すとともに、保護者支援としてペアレント・トレーニングにも力を入れております。

これからも、保育士一同しっかりとこども達とご家族に向き合い、笑顔あふれる拓桃園を作っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します!!



前列中央、川部主任保育士と拓桃園担当保育士の皆さん

行事予定

- 11/ 6 (月) 長野ヒデ子さんの絵本読み聞かせ会
- 11/ 8 (水) クリニクラウン訪問
- 11/22 (水) 司厨士会慰問 (拓桃園)
スマイリングホスピタルジャパン
訪問
- 11/30 (木) 第 165 回まほうの広場コンサート
- 12/ 5 (火) 光のページェント in こども病院点
灯式
- 12/13 (水) 難病のこども支援全国ネットワ
ークよりサンタクロース訪問
- 12/22 (金) クリスマス会

編集後記

日に日に寒くなり冬の訪れを感じます。夏は雨が多く 36 日連続という降水連続日数記録更新となりましたが、はたして冬はどのぐらい雪が降るのでしょうか。ほどほどにしてほしいと願いつつ、車のタイヤ交換をいつにしようかと考えています。

春には緊張しきりで表情が硬かった新入職員も成長し、こども達と笑顔で話している姿を見てこちらも心が温まりました。専門的な知識と技術はもちろんですが、さらに心の通ったこどもに優しい医療を提供するあたたかい病院を目指して我々も日々精進していく所存です。

ご多忙中にもかかわらず原稿をご提供いただいた皆様にあためて御礼申し上げます。これからも今泉院長をはじめスタッフと共に「こども病院の今(なう)」をお伝えしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

(放射線部 町井 祐輔)

地方独立行政法人

宮城県立こども病院

〒 989-3126

宮城県仙台市青葉区落合四丁目 3-17

TEL: 022-391-5111

FAX: 022-391-5118

<http://www.miyagi-children.or.jp/>

広報委員会

委員長 田中 高志

広報委員 虻川 大樹

乾 健彦

小畑 正子

鈴木 敏也

洞口 亮

原山千穂子

町井 祐輔

横山麻依子

阿部 智

岩崎かおり

櫻井奈津子

武山 淳二

中村 一樹

藤本 尚子

三上 静香

猪狩 菜緒

大塚 有希

佐藤 慎

千葉 弥生

濱町友里恵

真嶋 智彦

皆川 寛恵



当院は日本医療機能評価機構の認定病院です。



この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用し、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は責任をもって管理された森林から作られたFSC®認証紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。